

和痛分娩のご案内

分娩の痛みは、人類始まって以来変わることのない自然なものです。日本では伝統的に自然分娩が行われ、従来からお産に必要な子宮収縮（陣痛）の痛みを和らげるために、呼吸法などの陣痛緩和法が行われてきました。一方、分娩に対する不安や恐怖感の強い方や痛みに対してストレスを強く感じる方では、ストレスや不安感から分娩の進行が遅れ、母体や胎児に悪影響を及ぼすことがあると言われるようになりました。また、経産婦さんでも前回の分娩で陣痛の強いストレスを感じ、今回の分娩に関し不安を抱いている方では、分娩時の痛みを取り除くことでよりよい分娩に取り組むことができます。痛みを適切に取り除き、安全なお産を目指すのが和痛分娩という方法です。

当院では分娩時の陣痛緩和法として、麻薬系鎮痛薬を用いた和痛分娩をお選びいただけるようにしています。本薬剤は、全身麻酔中の鎮痛剤として保険で認可されています。しかしながら、日本では和痛分娩自体が保険で認可されていないため、適応外使用となります。そのため万一重大な副作用が生じた場合でも、医薬品副作用被害救済制度は利用することができません。



当院の和痛分娩の方法

妊婦さんの痛みに合わせて投与量を自己調節できるボタンが付いた Patient Controlled Analgesia (PCA) ポンプという機械を使用して、麻薬系鎮痛剤を経静脈的に投与します。この鎮痛法の長所は、痛みがある時にご自分で麻薬系鎮痛薬を投与できることです。ただし、陣痛が完全に消失するわけではありません。鎮痛効果には個人差があります。

副作用

母体への副作用として、強い眠気、呼吸抑制や悪心嘔吐、痒みなどが起こることがあります。その際には麻薬系鎮痛薬投与を中止し、症状に応じた治療が必要になることがあります。状態によっては自然分娩に切り替えることもあります。非常にわずかですが、呼吸停止や心停止の報告もあり、緊急蘇生を要する可能性があります。また、陣痛が弱くなることがあります。分娩経過が長引く場合には、子宮収縮剤の投与により有効な陣痛が得られるようにします。

麻薬系鎮痛薬は胎児にも移行します。出生直後のお子さんの呼吸が弱くならないように、分娩が近くなったら麻薬系鎮痛薬の使用を中止します。生後約1時間はベビー室で注意深くお子さんの状態を観察していきます。

PCA ポンプについて

麻薬系鎮痛薬をご自身の意思で使用できる装置を使用します。痛みが出てきたらポンプについているボタンを押してください。すぐに一定量の麻薬系鎮痛薬が注入されるように設定されています。麻薬系鎮痛薬を安全に使用できるように自動調整されていますので、薬の使い過ぎを心配せずに使用することができます。

和痛分娩を希望する場合の手続きや費用など

和痛分娩は原則としてご希望の方全員に行えます。(ただし母体や胎児の状況、病院の都合により施行できない場合もあります。)

和痛分娩をご希望の方は、その旨を妊娠 36 週までに担当医にお申し付けください。
通常妊娠 36 週前後に血液検査(不規則抗体など)を行います。和痛分娩をご希望の方は、和痛分娩のために必要な血液検査を同時に行います。別途費用(3,000~4,000 円)が必要となります。

外来でお渡しする同意書に署名の上、出産のために入院される時にお持ちください。

なお、和痛分娩ではその処置に対して 35,000 円が分娩費用に加算されます。
また 麻薬系鎮痛薬を更新する度に 5000 円が追加となります。

※効果が不十分だった場合、副作用のために中止になった場合や途中で帝王切開に切り替わった場合、麻薬系鎮痛剤の準備中に分娩になり実際に使用ができなかった場合など、いかなる理由でも返金はできません。

2016 年 10 月 産婦人科